

追悼の辞

日本人戦没者慰霊祭の挙行に際し、フィリピン在留邦人を代表し、全ての戦没者の御霊(みたま)に謹んで哀悼の意を表します。

ここフィリピンでは、先の大戦において、実に50万人を超える日本軍将兵、2万人の民間人の方々が尊い命を落とされました。

フィリピン各地の戦闘で、或いは飢えに、或いは病に苦しみつつ、祖国日本、故郷、家族を想いながら 戦禍に散った方々は、いま私たちが見るこの南国の美しい空と同じ空を、山を、海を、花を見ながら、無念の死を遂げられました。このことに思いを馳せる時、改めて痛惜(つうせき)の念が胸に迫ります。

また、この戦禍により、日本人犠牲者に倍する実に110万人以上のフィリピンの方々が犠牲になったことも忘れてはなりません。

先の大戦が終わり、79年の長い歳月が流れ来年には80年という節目の年を迎えます。昭和はすでに遠く、平成を経て、今は令和の時代となっています。戦後、私たち日本人の多くは、幸いにも平和を享受しています。

戦時下の恩讐を超えたフィリピンの人々の赦しの心、そして我々の先人達のたゆまざる努力により、日比両国は現在の、大変緊密な関係を築くことができました。

一方で、世界に目を向ければ、近年各地で新たな戦争や紛争が勃発し、今この瞬間にも、戦禍の中で苦しんでいる多くの人々がおられます。今こそ日本の、そして世界の平和を切に願わずにはられません。

本日、このカリラヤの地で、ご参列の皆様と共に、かつてかくも多くの人々の尊い血が流れ、幾多の犠牲が払われたことを、深く心に刻み、後に続く世代に永遠に語り継ぎ、日比両国の一層の相互理解と友好の礎とすることを、戦没者の御霊(みたま)の前で改めて誓います。

戦没者の皆様、どうぞ安らかに、お眠りください。

令和6年8月15日

マニラ日本人会 会長 岡本 和典